ひらおか

平岡地区町内会連合会

清田区平岡7条3丁目9−25 平岡まちづくりセンター内　TEL 883−7100　発行責任者：鎌倉　功　編集責任者：竹下　敏雄

町連会長のひとり言

（震度とマグニチュードについて）

平岡地区町内会連合会
会　長　鎌倉　　功

新年会、会内の町内会にお呼ばれし、お楽しみ「ビンゴゲーム」での賞品がカセットコンロや懐中電灯・インスタントラーメン等、防災グッズが沢山。

会議や広報紙で防災について周知、お願いしたことが少しずつ浸透してきていることに一安心。

でも「当たるまで待とう防災グッズ」ではなく、ぜひご自分でご用意を！

さて理論的にマグニチュード12で地球は割れるって知っていますか？

マグニチュード12は長さ10,000㎞の断層が動くことになりますが地球の直径は約13,000㎞であるため、ほとんど地球が真っ二つに割れることになってしまうという事です。（地球での最大地震は1960年のチリ沖地震です）

マグニチュード（Mと表示）とは…地震そのものの大きさ（規模）を表します。

M 6.0	津波が発生する可能性あり。（胆振東部地震6.7）
M 7.3	阪神淡路大震災　1995年
M 7.9	関東大震災　1923年
M 9.1	スマトラ沖地震　2004年
M 9.5	チリ沖地震　1960年　観測史上世界最大の地震
M10.0	地球上で発生し得る最大の地震。
M12.0	もし発生した場合、地球が真っ二つに割れるM。

震度とは…地震が起きたとき、私たちが生活している場所での揺れの強さを表します。

震度５弱	人は恐怖を感じ、身の安全を図ろうとする。歩行に支障。
震度５強	人は恐怖を感じ、行動を中止。胆振東部地震清田区の震度。
震度６弱	固定してない重い家具が転倒等。耐震性の低い住宅倒壊も有り。
震度６強	立っている事が出来ず這わないと動けない。倒壊建物が多数。
震 度 7	揺れで家具が移動凶器化。耐震性の高い建物でも大きく損壊有 胆振東部地震（厚真町）東日本大震災（宮城県）

参考１．東日本大震災…我が国観測史上最大の地震Ｍ９（広さ：南北50㎞・東西200㎞・広さ10万平方キロメートル）

参考２．無落雪住宅で冬季多雪時には、屋根の雪の重さが10トン以上になる為、地震での倒壊に要注意です。

ご存知ですか
平岡町連ホームページを開設！

パソコンとスマホでご覧になれます。
アドレスは次の通り。
http://hiraoka.kiyotamin.net/wp/
スマホはQRコードから手軽にご覧できます。

清田区新年交礼会

平岡中学校吹奏楽部が復興を願う演奏！

平成31年の清田区新年交礼会が１月８日（火）、厚別区新さっぽろのホテルエミシア札幌で開催されました。清田区内の町内会役員や学校、企業、団体関係者らが多数参加、新年のあいさつを交わし、一年の始まりに気持ちを新たにしていました。

今年は平岡中学校吹奏楽部がステージに立ち、「ふるさと」など４曲を演奏。新年交礼会を盛り上げてくれました。平岡中学校は、昨年の地震で被害が大きかった里塚地区を校区とする学校で、吹奏楽部の部員の多くも被災したといいます。困難な中、一生懸命練習して、この日、見事な演奏を披露してくれました。頑張る中学生たちの姿に、元気をもらった新年交礼会参加者が多くいました。

主催者挨拶、秋元市長など来賓挨拶に続いて小角武嗣清田区長の祝杯で祝宴に入り、会場は、新年らしい華やかな空気に包まれていました。

演奏する平岡中学校吹奏楽部

また、平岡地区町連の新年交礼会は１月６日（日）11時より平岡地区会館で26町内会の代表及び来賓など約130名の参加を頂き開催、新年のスタートを共々に開始しました。鎌倉功会長は「地震はいつ来るかわからない。しっかり対策を行っていく」と述べました。お米などの賞品があたる抽選会で盛り上がりました。

祝杯は小角清田区長

町連新年交礼会の様子

「笑顔あふれる あったかい学校」に

札幌市立平岡小学校
校長　鈴木 真由美

平岡地区の皆様には、日頃より大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

昭和60年３月、児童数522名で開校式を迎えた本校も、地域や保護者の皆様に支えられながら、来年度35周年を迎えます。

明るい笑顔が可愛い本校の子どもたちですが、今回は、本校の特色とも言える二つの教育活動を紹介させていただきます。

～「うめっ子活動」～

人と関わる事の楽しさや自主性、社会性を身に付けることをねらいとした、異学年交流です。高学年がリーダーとなり、一緒に遊んだり給食を食べたり、様々な活動の中で、優しい姿や笑顔がいっぱい見られる、私のお気に入りの活動です。中でも、うめっ子グループが一致団結して綱引きで対戦する「うめっ子選手権」と、5・6年生が準備したミッションをうめっ子の小グループで回る「うめっ子オリエンテーリング」は、子どもたちも教職員も一緒になってとても盛り上がる活動です。

～「職業体験」学習～

６年生の総合的な学習の時間に行っている「職業体験」では、毎年ご多用の中、地域の施設や商店にご協力を願い、実際に「働く」体験をさせて頂いております。子どもたちの真剣な眼差しや一生懸命な姿を見ていると、自分で考えて動く事、相手を気遣う事、人や仕事に真剣に向き合う事等々、学校の外の「社会」だからこそ学ぶ事が出来る貴重な機会を与えて頂ける事は本当に有難い事だと感じます。一人一人の子どもが眼を輝かせて臨む、素敵な学習です。

１年生の公園探検に始まり、地域の皆様には、子どもたちを温かく見守り、様々な場や機会にお世話になっております。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

=単町訪問=　900世帯超の町内会活動

「アンケート調査」を基本に楽しい「活動・行事」が広がる

平岡公園町内会　会長　安藤　英夫

今年９月に発足35周年を迎える、私たちの平岡公園町内会は「908」世帯を擁す規模になっています。

「少子高齢化」時代の御多聞に洩れず、高齢化率は30％に達しました。町内会加入率は96％と安定しているものの、規模が大きいだけに町内会活動の取り組みに苦慮しています。実りある活動のためどんな工夫をしているかというと、その第１は「町内会活動アンケート調査」です。

この10年以内に限って言えば、まず平成23年の東日本大震災を機に、いつ起きるかしれない災害に備えるべく「助け合い・見守り活動」についてのアンケート調査を実施しました。当時の62％ 550世帯から回答を得て、「支援を必要とする」は63世帯。「見守りの対象者を希望する」は42世帯。これをきっかけに、翌24年から「見守り・声かけ活動」を推進する事になりました。次は、平成25年に町内会恒例行事「日帰りバスツァー」についてのアンケートを実施。とても参考になりました。

また、平成26年の「町内会館使用について」の調査では、貴重な意見が続出。「高齢者が集える機会をつくって」「気楽に集まれるようなサロンを開いて」「乳幼児のためのスペースがあれば」等の声が上がりました。

この結果、同年５月町内会館を会場に「ふれ愛サロン」が開設され、以来毎月開催し現在に至っています。

きぼうあふれる

【特集】札幌市「パート

【迫る人口減少・超高齢社会の進行】

札幌市の人口が大幅に減少する一方で、高齢者は大幅に増加することが予測されています。

更に建設業の就業者数は、厳しい労働環境を背景として、ピーク時から大きく減少しおり、また町内会の運営や活動に主体的に取り組んでいる役員も高齢化が進んできている現状があります。

加えて札幌市の財政見通しは、様々な支出の増加が見込まれており、全く楽観視できない状況下にあります。

そこで、人口減少や高齢化の一層の進行といった社会環境が大きく変化する状況の中であっても雪対策が抱える課題に対応し、札幌市民が将来にわたり安心して安全に冬を過ごせるよう、雪対策のSDG's の推進として「目指すべき将来」を次のように設定されました。

「安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現」として

次に掲げる「５の視点」を定め、その視点に基づき重点施策を展開することになりました。

視点１　安心・安全な冬期道路交通の確保
視点２　除排雪作業の効率化・省力化
視点３　除排雪体制の維持・安定化
視点４　雪対策における市民力の結集
視点５　雪対策に関する広報の充実

（詳細は「札幌市冬みちづくりプラン2018」を参照）

雪対策の現状と問題の中で「地域として取り組めること」はないのか？

札幌市の雪対策の中で、財政負担の増大、除雪従事者の高齢化とオペレーターの減少等、人材確保と除雪機械の確保等々輸送手段を含む除排雪体制の維持困難が危惧されている。この様な社会環境の中、

平岡の大地から

トーシップ排雪制度」

問題となっている一つに、私たちに関係する身近な問題として「地域支払額」があります。

パートナーシップ排雪制度は、地域住民が生活道路の排雪を実施する場合に、地域住民の申請を受け、市が支援する制度です。札幌市と地域（町内会）の負担で行うというものですが負担割合は［札幌市負担＝実施排雪費用－地域支払額（町内会）定額］となっており町内会が負担する経費を「地域支払額」と言います。町内会ではこの「支払額」が年々、人件費や燃料費、機械経費などの高騰で「町内会における財政負担」として大きな問題になってきています。

「実証実験」って？

町内会の経費負担軽減へのアプローチ

札幌市が提案している「経費負担削減対応策」として一昨年より、試験的に実施されているのが、パートナーシップ除排雪時の「排雪量」を減らし、町内会が負担する支払額を**35万円/km**に減額し経費負担削減を図る事を目的とした「実証実験」の実施です。

今年度、当平岡地区町内会連合会内では26単位町内会のうち４町内会が「実証実験」に参画しております。各町内の実施予定が２月下旬の事から、その実証実験の結果が待たれるところであります。

＝実証実験の概要＝

■目　　的　パートナーシップ排雪制度における、地域と札幌市双方の費用負担の軽減を図る為、残す雪の量を見直して排雪費用を抑える事について検討しています。
この実証実験は、道路に残す雪を多くした場合に地域住民の生活環境にどのような課題や問題があるのかを検証し、市民にご理解いただける制度の運用を検討する

■実施期間　平成30年度パートナーシップ排雪実施時

■対象路線　町内会区域内の申請路線の10m未満の道路（清田区内の数団体程度を予定）

■留意事項

・実験の影響を検証するため、追加の排雪作業は原則行いません。
・実験終了後、路面状況を確認した上で、ザクザク状態の解消を目的とした「かき分け除雪」を市で行うことがあります。
・実験終了後、アンケート調査へのご協力をお願いします。
・路面の雪を深く削らない分、道路に残る雪は多くなります。
・現行断面に比べ、ザクザク時のワダチが深くなる可能性があります。

さらに、平成27年には町内会活動・行事全般について要望・意見を聞くアンケート調査を実施。そして最新の調査は、昨年５月再度の「町内会活動について」のアンケートでした。ここでは実に町内の80％の会員から回答が届きました。具体的な内容として、「災害時の避難に不安がある」との回答が106名。その中で「見守り活動の対象者になる」は24名。一方、「見守り活動の協力員になりたい」は、なんと40名を超え、そのうち13名の方が現在、任に就いています。その他、交通安全指導員やスクールガードへの登録を希望する方、町内会活動にボランティアとして参加したい方など、多くの方々が名乗りを上げてくれたのです。これらの事は、速やかに調査結果をまとめて、会員の皆様へ御礼と町内会の会報を通じて結果をお知らせしているところです。

このように、町内会の皆さんに支えられ協力をいただきながら、今、楽しい活動・行事が広がっています。

気持ちのよい　あいさつ

札幌市立平岡中央小学校
校長　福田　栄喜

毎日、子どもたちは元気に登校しています。通学路では、雨の日や雪の日もスクールガードの皆さんや交通指導員さん、保護者や地域の皆さんが、子どもたちが安全に登下校できるように見守りをしてくださっています。

子どもたちは、毎朝玄関や廊下で元気にあいさつをしています。登校してきた子どもたちから元気な声で、「おはようございます」と返事が返ってくると一日のスタートを爽やかな気持ちで迎えることができ、うれしくなります。また朝のあいさつから、その日の子どもの心や体の様子などを垣間見ることができます。

わたしたちは、毎日の生活の中で、朝夕・出会い・別れのときなど様々な場面であいさつを交わします。学校の一日は、「おはよう」「おはようございます」のあいさつで始まり、「さようなら」のあいさつで終わります。あいさつを気持ちよく交わすと、一日が楽しくなります。本校では、冬の期間に６年生の子どもたちが、玄関であいさつをしたり、登校して来る子どもたちの雪を払ったりしています。玄関で下級生の肩や鞄に積もった雪を払ったり、笑顔で挨拶をしたりしている子どもたちを見ていると心が温かくなります。

あいさつは自分の存在を表し、人と人との関係も築く大切な言葉です。気持ちのよいあいさつは、その人だけではなく、周りの人々も幸せにしてくれます。そして、「はい」という返事も大切な言葉です。子どもたちは、名前を呼ばれたときに、明るく、元気に「はい」と返事が言えているでしょうか。今後も大きな声で「はい」と返事をし、大きな声と笑顔で「あいさつ」ができるように引き続き学校全体で取り組んでいきます。保護者、地域の皆さんには、これまでにも増して本校教育活動へのご理解とご支援をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

「まちに灯りをinみどりーむ」

平岡樹芸センター

平岡樹芸センター（愛称：みどりーむ、平岡４条３丁目）で１月26日（土）、雪とあかりのイベント「まちに灯りをinみどりーむ」が行われました。

平岡樹芸センターのボランティアグループ「環境サポーターズ三次郎の会」と、樹芸センターの指定管理者である札幌市公園緑化協会の主催で開催しました。

親子連れら多くの人が訪れ、「きれいだね」と鑑賞したり、写真を撮ったりしました。

会場では、あったかいココアのサービスもあり、地域の人たちが体を温めながら氷と光の芸術を見ながら交流しました。

平岡樹芸センター “みどりーむ”と共に十年 ボランティア活動を振り返って

環境サポーターズ「三次郎の会」 事務局長 竹澤美千子

平岡樹芸センターは「養樹園」を経営していた義父「竹澤三次郎」が、社会へのご恩返しとして「土地と樹木」を寄贈し、昭和59年に開園しました。樹木を美しく仕上げる技術の保存と普及が目的で優れた造園緑化事業として建設大臣賞を受賞しております。

しかし「市民の参考になる見本園を造りたい」と念じ夢見ていた義父は設計図を見る事もなく、５年前に他界しました。私は樹芸センターの隣で園芸店を開店し見守ってまいりました。当初は「憩いの場、見学の場」としてセンターも賑わっており、平成19年には「清田ふるさと遺産」に選ばれました。しかし20数年経過するうちに寂しい雰囲気となり、樹木の勢いも弱まっていくようでした。そんな状況を何とかしよう！自分たちの公園として見守り元気づけ活用しよう！と平成21年に地域の仲間で公園ボランティア「三次郎の会」を立ち上げました。

当初の活動内容は「基本的な管理作業」と「多角的な活用法」としてのイベント実施です。子どもたちと緑の中で遊ぶ「七夕まつり」や野外で多くの人とふれあえる「庭園コンサート」を開催してきました。未経験ながら会員が力を合わせて取り組み、札幌市公園緑化協会の協力も得て実現することができ、来園者のみな様に楽しんでいただく喜びを知りました。あれから10年、樹芸センターも観光バスでの来園や福祉施設の利用者、外国の方など来園者も増え「三次郎の会」も清田区役所や賛助会員をはじめ多くの方々の支援を得て活動を続行中です。夏祭りとコンサートの輪も年々大きくなっています。新たに加えた活動は、春と秋の「庭園ガイド」と、冬に行う「スノーキャンドル」で一昨年には「緑の愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞いたしました。

今検討しているのは新会員が入り易く高齢化した会員が無理なく活動できる体制作りです。学生等のボランティアや利活用協議会など、地域の方々の協力とアドバイスをいただきながら樹芸センターを「緑の財産」として次世代に繋げていきたいと願っています。

活動十周年記念に寄贈したマルバノキの美しい紅葉をご一緒に楽しみたいと思っています。

平岡樹芸センターについて

平成19年「清田ふるさと遺産」に指定された美庭で、故・竹澤三次郎氏が、「一般の人の参考となる見本園を作りたいと」広大な土地と樹木を札幌市に寄贈。これを受け札幌市が設計した美庭。同センターには、日本庭園、西洋庭園、ロックガーデン等の庭からなり、オンコ（イチイ）、約3,000本、モミジ８種700～800本等が植えられ、春は桜、秋は燃えるような紅葉で、沢山の市民、観光客が訪れている清田区の名所。

※清田区遺産とは清田区が平成19年（2007年）11月に誕生10周年を迎えたのを記念して12の「清田ふるさと遺産」を決定しました。これは未来に引き継ぐべきものとして、区民の皆さんから募集した候補85点から「清田区10周年実行委員会」が選定したものです。他に「白旗山やあしりべつ郷土館、平岡公園や有明の滝」などがあります。

◎広報「ひらおか」に原稿応募・情報提供でクオカード又は図書券をゲットしよう！

広報「ひらおか」原稿募集しています！

一、応募期間～常時募集。　発行は年２回を予定～次回は11月頃を予定。
一、応募締め切りは発行月の２カ月前まで（次回は８月末）
一、応募資格～「平岡地区町連」に居住する皆さま（特に主婦・中高の学生・大学生の方歓迎）。
一、応募内容～概ね600字以内程度（写真可）USB・SDカードでの応募歓迎。
・町内会行事の楽しかった事や地域のボランティア活動等。
・地域内の小・中・高の学校での地域活動や日常生活での活動報告。
・各町内会の皆さんに知ってほしい事、役立ててほしい事柄等。
・その他
一、連絡先～平岡地区町内会連合会（平岡まちづくりセンター内）TEL　883－7100

◎注意事項
※応募原稿の内容を審査し、採用の方に、クオカード又は図書券いずれかを進呈します。
※応募の原稿、写真は返却しません。
※紙面の都合上、掲載されない事があります。
※掲載に当たっては原稿を添削することがあります。

平岡地域の皆さん！

平岡地区町連のボランティア役員を募集しています!!

連絡先～平岡地区町内会連合会（平岡まちづくりセンター内）電話883－7100

編集後記

昨年は異常気象によるものなのか、「何十年に一度という単位の異常気象」や自然災害が頻発していました。今年は「平穏な社会」をと願いつつも、昨今のニュースで気になるのは「あおり運転」や「児童虐待」など家庭崩壊なのか人間関係の希薄さ故なのか心を痛める話題が目立ちます。

広報「ひらおか」が少しでも地域の方々に読まれ、笑顔が生まれるようにと内容をなるべく明るい話題にと務めました。一読して頂き感想やご意見など聞かせて頂ければ幸いです。力不足の為、思うような紙面づくりが出来ませんが、皆さまと一緒に歩んで参りたいと思いますので、皆さまからの情報や話題の提供、趣味の投稿等々お待ちしております。

広報部長　竹下　敏雄